SMC NEWS
ICU 宗教音楽センター会報

国際基督教大学 宗教音楽センター〒181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2
発行者 佐藤 望 Nozomi Sato
Tel: 0422-33-3330 Fax: 0422-34-7361
URL: https://office.icu.ac.jp/smc/ e-mail: smc@icu.ac.jp
Facebook: https://www.facebook.com/icu.smc
Instagram: https://www.instagram.com/icu_smc

50 th Anniversary Symposium Report

On 12 June the SMC held a commemorative concert and symposium to celebrate the 50th anniversary of the installation of the Rieger organ in the ICU chapel in 1970. The event was originally scheduled for June 2020 but was postponed for a year due to the continuing COVID-19 situation. Due to the continuing restrictions, entrance to the event was unfortunately restricted, but was streamed live to a large internet audience. The event began with a recital by the three current ICU organists, Tokuoka Megumi, Kan Tetsuya, and Iwasaki Mamiko. Tokuoka opened the concert with two classical pieces by Dieterich Buxtehude and Nicolas de Grigny, followed by a contemporary composition by André Isoir. Kan followed with two pieces by J.S. Bach, as well as two recent works by the composers Philip Glass and Simon Preston. Iwasaki concluded the concert with a solid selection of 4 organ works from the Leipzig chorale collection. All of these varied compositions made full use of the Rieger organ's capabilities, and paid fitting homage to the history of organ-music-making at ICU over the years.

The event continued with a symposium featuring many of the key figures from the story of the Rieger organ. Kanazawa Masakata, the second director of the Sacred Music Center, talked about the early history of the Rieger organ, and included many of his personal reminiscences of the time period before and after the organ's installation. Itoh Tatsuhiko, the third director of the SMC, talked how the organ had become a central part of the musical life of ICU and had influenced music education at the university. Sato Nozomi, the current director of the SMC, gave an inspiring talk about his vision for the future of the Center and for music at ICU. Finally, the organ builder Nakazato Takeshi, who for many years has been in charge of maintenance and tuning of the Rieger organ, talked about his relationship with the instrument over the years. The event concluded with personal recollections from each of the organ performers, and a question-and-answer session from the internet audience. We look forward to many more years of organ music at ICU!

MG

6月12日、ICU 宗教音楽センター主催で、1970 年に礼拝堂に奉献されたリーガーオルガンの 50 周年を祝う演奏会とシンポジウムを開催致しました。もともとは 2020 年 6 月に予定されていた行事でしたが、コロナの登場によって延期されたのでした。いまだに続くコロナ下の規制のため、礼拝堂への入場は制限されてしまいましたが、ライブ配信を通じて多くのみなさまにイベントをお届けすることはできました。前半は現 ICU オルガニストの徳岡めぐみ氏、菅哲也氏、そして岩崎真実子氏による演奏でした。徳岡氏はブクステフーデとニコラ・ド・グリニーの古典を皮切りに、アンドレ・イゾワールのコンテンポラリー作品を披露。続く菅氏は J.S. バッハの二曲、そしてフィリップ・グラスとサイモン・プレストンの現代曲。最後に登場した岩崎氏の選曲は 4 曲すべて（バッハの）ライプツィヒ・コラール集からというもので、手堅く演奏会を締めくくりました。変化に富むプログラムでしたが、そのすべてがリーガーオルガンの能力を最大に引き出すもので、ICU が何年もにわたりオルガン音楽振興に傾注してきた歴史へのオマージュとなったのでした。

イベントの後半は、リーガーオルガンの歴史に名を残す登場人物が彩りました。宗教音楽センターの第二代所長、金澤正剛先生はリーガーオルガンの黎明期の頃、その奉献前後の思い出を語って下さいました。第三代所長の伊東辰彦先生はリーガーオルガンがいかに ICU キャンパスにおける音楽活動の中心になり、また本学の音楽教育に影響を与えてきたか、を教えてくださいました。そして最後に、オルガンビルダーで、長年リーガーオルガンの調律とメンテナンスに携わって下さった中里威氏からは、リーガーと彼の関係についての思い出話を。その後にオルガニストの方々の思いも伺え、さらにオンラインで視聴してくださったみなさまとの質疑応答でイベントは締めくくられました。ICU で、今後も何年にもわたり奏でられるであろうオルガン音楽を楽しみにしています。（M.G.）

ICU Organ Concert Autumn 2021

2021 年秋シーズン　オルガン演奏会

LIVE STREAMING 1,000 円

ご来場につきましては、ホームページでお知らせ致しますのでご確認ください
Information about on-site attendance will be announced at HP

安　杏菜
Anna An

北ドイツ・オルガン楽派ににおいて重要なブクステフーデの作品と、私がベルギーへ留学をするきっかけとなったベルギー出身の作曲家であるフランクの作品に加え、柿沼唯先生の四月織という作品を演奏したいと思います。四月織は昨年延期された四月の演奏会に予定していたプログラムの一つで、春の復活節にちなんだ作品ですが、世界における今後の明るい希望をこめてこのリーガーオルガンで演奏できたらと思います。

In addition to works by Buxtehude, an important figure in North German organ music, and Franck, the Belgian composer who inspired me to go to the country to study, I will also perform Tapisserie d'avir' by Yui Kakinuma. The piece was involved in the programme for the April concert, which was postponed last year.

大平　健介
Kensuke Ohira

中世、ルネサンス、そしてバロック時代とオルガン音楽には長い歴史がありますが、私たちが生きる今この瞬間にも新しい作品は生まれ続けています。オルガンの音色を通して明日への希望と生きている喜びの輪を広げていきたい、そんな想いに寄せて躍動感溢れるプログラムを構成しました。ICU のリーガーオルガン奉献 50 周年記念へのお祝いと共に、これからもこの礼拝堂に讃美の音色がいつまでも響き渡るよう願いを込めて。

Organ music has a long history, from the Middle Ages to the Renaissance and the Baroque period, but new works are being created even today. For the program, I selected the pieces with a wish to expand the circle of hope and the joy of living through the sounds of the organ. In celebration of the 50th anniversary of the ICU's Rieger organ, I hope that this chapel will continue to be filled with the sounds of praise for many years to come.

ICU Christmas Concert 2021

2021 年クリスマス演奏会

サリクスカンマーコア
Salicus　Kammerchor

待降節のグレゴリオ聖歌「来たれ、異邦人の救い主よ」と降誕節のグレゴリオ聖歌「太陽の昇る地平より」はマルティン・ルターによってコラールとしてドイツ語訳され、様々な作曲家の作品に用いられました。今回グレゴリオ聖歌をもとに作られたモテット、コラールをもとに作られたモテットをそれぞれ演奏いたします。

This year, Salicus Kammerchor will brings the joy of Christmas season with beautiful tunes of Gregorio chant and Christmas Carols.

オンライン・シンポジウム Online Symposium

越境する日本の仏教音楽
宗教・文化・精神のグローバル化

Japanese Buddhist Music in Transnational Contexts
-The Globalization of Religion, Culture and Spirityality

2021年9月25日（土）、9：30~16：00

Saturday 25 September 2021, 9:30~16:00

日本の仏教音楽は、明治維新による欧米からの影響を受け、また日本人が世界各地へ移民として入植したことによって、大きな変化を経験した。当シンポジウムは、日本国内および北アメリカ（ハワイを含む）の日本移民コミュニティにおける、さまざまな仏教音楽活動に関する研究成果を提示するものである。午前の部は、国内外の研究者による研究発表によって、近代、国内外で展開した日本の仏教音楽を多面的に探る。午後の部は、天台声明（齊川文泰師）および「テクノ法要」（朝倉行宣師）の実演とレクチャーから、伝承の現場の「今」を考える。

Japanese Buddhist music-making underwent huge changes following the Meiji restoration, as Japan opened its doors to foreign influence and large numbers of Japanese emigrated around the globe. This one-day symposium presents recent research on the musical activities of Japanese Buddhist communities both within Japan and in Japanese diasporic communities in North America since the late 19th century. The morning session contains talks by scholars from inside and outside Japan. The afternoon session features two lecture-performance sessions: Saikawa Buntai will discuss the modern transmission of Tendai shōmyō, while Asakura Gyōsen will describe and demonstrate his innovative Techno hōyō ritual events.

リーガーオルガン・エッセー・リレー
Memories of the Rieger Organ

リーガーオルガンの思い出
ICU　名誉教授　大西直樹

1970年10月、ICU教会にリーガー社の本格的オルガンが奉献された。そして73年2月11日、NHKテレビがICUのオルガン演奏を全国放映をしたのは画期的だった。演奏者はアントン・ハイラーとマリー・クレール・アランという世界的なオルガニストで、本格的オルガンによるコンサートは大きなインパクトを与えた。この件を含めて、リーガーオルガンの設立には興味深い逸話にあふれている。

大学の初代理事長の東ケ崎潔氏は、1967年三寿夫人が亡くなった時、ICU教会で持たれた葬儀での献金を将来のオルガン建設のために寄付されている。御子息の東ヶ崎（ゴードン）茂氏から私は彼の最晩年、幸いにもオルガンにまつわるエピソードを直接伺うことができた。彼は満州での終戦後三年間のシベリア抑留を経て帰還したが、やがてスワスモア大学へ留学する。渡米前オルガン演奏のレッスンを青山学院の奥田耕天氏から受けていた。そこにはニューイングランド音楽院に留学する林佑子先生もいた。ICUとは直接の関わりのない二人は、にもかかわらずICU教会には本格的なオルガンが必須との堅い確信を共有していた。その決意を抱いて1959年の段階で大学教会の建て替えに着手していたレイモンド社を勝手におとづれ、将来設置された場合のオルガンの位置や音響に関する検討をしている。

その後、東京での国際見本市にリーガー社のオルガンが出品される予定だったが、見本市が中止となりオーストリアに持ち帰るのではなく、日本で引取先を探していた。多分、1968年、その話を茂氏が大学理事会と、ニューヨークのICU財団のショーロック氏に伝えたのが全ての始まりだろう。つまり、発端は大学でも教会でもなく、東ケ崎茂氏と林佑子先生という二人の確信と願いだったのだ。話を受けた理事会は財政的責任は負わないという条件で承認し、全てをICU教会に任せた。大学は69年の一学期から学生ストライキに巻き込まれるが、その紛争で深く傷ついた大学の教会でオルガン建設が進み、一年半後、奉献記念礼拝が持たれた。しかし、現在の貨幣価値で2億円超の資金調達はその時点で巨額の未決済資金が残され、星野命先生を中心とするICU教会の壮大な募金活動が展開される。こうして、ICUと直接関わりのない二人の願いから始まったこのオルガン建設には、実に多くの人々の願いと、驚くべき献身が凝縮されているのだ。　(Please visit our website for English translation)

ICU のオルガンと私

草苅義子

2021 年 6 月 12 日コロナ禍の中、リーガーオルガン奉献 50 周年記念コンサートが開催され、オルガンは、会堂一杯に輝かしく朗々と鳴り響いていました。

当初、聖歌隊席は会堂後方のバルコニーにあり、リードオルガンの伴奏で私も讃美しました。現在オルガンがある場所の壁には、木製の大きな十字架がありました。

1970 年オーストリアのリーガーオルガンが大学礼拝堂に設置されました。10 月オルガン奉献記念演奏会は林佑子先生の演奏でした。先生は小柄な方でしたが、それは力強く、荘厳な音が会堂中に鳴り響たのです。あの感動は忘れられません。「演奏前には美味しい物を頂かないと力が出ないのよ」とお聞きしていたので、鰻丼やかつ丼などお届けした事がありました。

その後、オルガンアカデミー開催時は、世界的巨匠マリークレールアラン女史、アントンハイラー氏、タリアビーニ氏が招聘されました。

私はアリタリアイタリア航空に勤務していたのでイタリア出身のタリアビーニ氏にファーストクラスに乗って頂きたいとの思いを会社に相談し成功しました。オルガニストは高橋秀先生、植田義子さん、聖歌隊長、正井進さん、ドナルドワース教授も共に毎週礼拝で讃美しました。

ICU には 4 台のオルガンが有り、その一台が宗教音楽センターに設置させて頂いた草苅工房の森オルガンです。森有正先生は「若い人を育てたい」とのお考えで、幸運にも草苅徹夫にオルガン製作のチャンスと与えて下さいました。始め、金澤正剛先生からお電話頂いた内容は、思いもよらぬオルガン製作の事でした。森先生は著書の印税をオルガン購入資金に充てると仰ったそうです。

金澤正剛先生始め、湯浅八郎学長、篠遠喜人、古屋安雄、諸先生と関係者がご賛同下さったと伺いました。製作には、少々時間が掛かりましたが、1985 年 I CU 本館宗教音楽センターに森オルガンを設置、完成させました。

オルガン募金委員長であった星野命先生は、資金繰りにご苦労された時、多くの人に少額ずつお願いすれば、完済できると考え、私もその中に入れて頂きました。ほどなく、先生の裁量で完済。その後リーガーオルガンは教会から大学側に寄贈されました。

オルガンは多くの人々の心に慰めと平安を与えながら、これからも礼拝と共に歌い続けるでしょう。

末永く、多くの人々に愛され、神を賛美する楽器として大切にされます様、お祈りいたします。

SOLI DEO GLORIA　神に栄光あれ　　(Please visit our website for English translation)

Editor's Note

宗教音楽センターでは、これまで SMC News を年に 2 回発行してきました。しかし、コロナ危機により人々が集まる機会が減り、紙媒体のニュースを各所に届けることが、とても難しくなってきたことをきっかけに、E-Newsletter を電子メールで配信するとともに、不定期でウェブニュースを発行することにしました。 今後、E-Newsletter をご希望の方は smc@icu.ac.jp までご連絡ください。

最初の 8 月 20 日号では、名誉教授の大西直樹先生と草苅義子さんに寄稿していただきました。

大西直樹先生は、ICU 出身でアメリカ文学がご専門として長く ICU で教鞭を執ってこられました。オルガン奉献当初の様子をよくご存知の一人です。大西先生には何回かに分けて当時のことをお書きいただきます。

草苅義子さんは、オルガン製作家の草苅徹夫さんのご夫人です。草苅徹夫さんは本館4階の森オルガンの製作者です。ICU 教会会員でもあり、草苅徹夫さんのオルガン製作をずっと支えてこられた方です。2人にその頃の思い出を語っていただきました。　（N. S）

The Sacred Music Center has been publishing SMC News twice a year. However, the corona crisis reduced the chances of people gathering and made it difficult for us to deliver paper news to anonymous people, I decided to publish web news along with E-Newsletter, on a irregular basis. Please contact smc@icu.ac.jp if you wish to subscribte to the E-Newsletter.

In this first issue, Professor Emeritus Naoki Onishi and Mrs. Yoshiko Kusakari have contributed. Professor Naoki Onishi is a graduate of ICU and has been teaching at ICU for a long time as a professor of American literature. He is one of those who are familiar with the initial state of the chapel organ dedication. Professor Onishi will write about the period in a series. Yoshiko Kusakari is the wife of Tetsuo Kusakari, an organ builder. Tetsuo Kusakari is the creator of the Mori Arimasa Memorial Organ on the 4th floor of the University Hall. Mori was a member of the ICU Church and had been supporting Tetsuo Kusakari's organ production for a long time. Please enjoy reading the memories of Prof. Onishi and Mrs. Kusakari of that time.　(N.S.)

ご寄付頂いた方に ICU の周年記念 CD を差し上げます

Donate for the ICU organ and receive a free CD

- ICU オルガンの世界 I　The world of ICU Organs I
- 大学礼拝堂オルガン奉献 30 周年記念
  The ICU Rieger organ: The 30th Anniversary
- 国際基督教大学　創立 50 周年記念
  ICU 50th Anniversary Celebration　Gabriel Fauré REQUIEM

1000 円のご寄付で CD 一枚をお送り致します。

詳しくは HP をご覧ください。

For details, please see → https://office.icu.ac.jp/smc/about/

この度 50 周年を祝して「オルガン奉献 50 周年記念誌」と記念クリアファイルを作成致しました。1500 円のご寄付で、記念誌とクリアファイル 2 枚をセットでお送り致します。

With a donation of JPY 1,500, get *The 50th Anniversary Commemoration* (a book) and a pair of clear files of Rieger Organ!